

会議名	令和6年度第4回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和6年11月28日（木） 午後3時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 3階中会議室2
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、中橋 恵美子、橋崎 正伸、 林 陽子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

（1）坂出市人口ビジョン素案について

（2）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

●会長

議題（1）坂出市人口ビジョン素案について、事務局の説明を求める。

○事務局

（資料1により説明）

●会長

何もしなければ、3万人に減るが、そこを4万人にしたいとのビジョンである。色々意見があろうかと思うので、お願いしたい。

●委員

社人研の人口推計は、上位・下位・中位とあり、これは中位推計を基準として、ネガティブな要因はない前提で、プラス要因をのせにのせて4万人を達成するという、幸せな推計だ

と感じた。香川県教育委員の県立高校のあり方検討会に委員として参加しており、R7年度の県立高校生の人数と14年後のR20年の高校生の人数の推計に衝撃を受けた。R20年の高校生は、すでに生まれていることから、推定の精度は高く、高松市でも約35%、周辺で約65%に学生数が減少するとの結果だった。

坂出市には高校が多く、それと合わせて駅前の再開発を対策としているが、高校生がこれだけ減ると、学校を維持するために、普通科であれば、丸亀と坂出を1つにする、中高一貫校を作るなどの話が出ることも考えられる。新しいところを作るということはどこかを閉じることになるが、R20年といえども、あっという間に来てしまうので、その時の子供を取り巻く環境は大きく変わる。高校が1つ無くなることや、別の隣まちに行くなど、人の流れや暮らす場所の選択肢にも影響が考えられる。そのことも含めて考えていく必要がある。

また、働く場の提供に関しては、学校が無くなっても大きな会社が坂出市に来れば、人の流れも変わるので、そういう政策を打ち出していくべきだと思う。

●会長

そんなにバラ色ではない。周りとの競争もあるので、そんなにうまくいかないとの指摘がある。

人口ビジョンでは、このままではこのようになるが、そうはしたくないので、様々な推移でのパターンを検討している。1つ気になったのは、実際の現状はこうですとの説明はあるが、何故このような状態になったのかといった、もう少し突っ込んだ理由を書くべきではないかと言うことだ。そうすることで、何をしなければいけないのかが、見えてくるのではないか。具体的には、12ページの流入・流出の状況を示すアスタリスクに、「四国では、直島について2位の水準となっている」とあるが、これは何故なのか。一つには、働く人口が多い、坂出の強みでもあるが、一方では他の場所に暮らす人が多いといったことも意味しており、この点の考察が必要ではないか。

○事務局

今回、人口ビジョンでは、現状値の状況を整理している。ご指摘の点は、もう少し考察できる点があると思うので追記を検討したい。

●会長

10ページで、社会動態の推移では、R2、R3年度に落ち込んで、R4年度に急激に上がってい

るのは、おそらく外国人ではないか。このように、どういう人が社会増の要因なのかを検討しないと、単に増えて良かったということではない可能性もあるので、このような点も検討をお願いします。

○事務局

その点についても検討したい。

●委員

11ページの合計特殊出生率の推移に関して、この数値は概略で言うと一人の女性が生涯に何人産むかとの数値と理解しているが、坂出市が県平均より低い要因を坂出市はどのように分析しているのか。これだけ文教、医療環境が良いと言われている環境（産婦人科など、坂出は決して多くはないが、他の自治体に比べると恵まれている）にあって高松市より低い点をどのように見ているのか。

○事務局

県平均より低い明確な要因を掴みかねている。女性の生涯出生率なので、医療関係が直接影響することはないのではないかと考えている。

●委員

これは、前回よりも下がっているのか上がっているのかなど、比較はできるか。この表では、H25年、H29年が突出しており他の年度はさほど差がないという事であれば、現場から見て何か気づきがあるか。

●委員

誤差の範囲で、たまたまと考えられる。香川県内はほぼ似た傾向であり、坂出に特徴的なことがあるわけではないと考える。産科は、回生病院しかなく、選択の余地はない、また取り組みも他の市町村とそんなに違いはない。

●委員

0.1は誤差の範囲と見てよいのか。

●委員

そのように考えている。

●委員

データから坂出の特徴を捉えて、「これをやっていく」ということを出す必要があると思う。例えば、大きな課題は、女性の流出であり、特に女性の働き盛りかつ産む年齢の人たちである20代、30代が市外に出ており、これから急速に少子化をけん引していることになる。25ページに女性の就労曲線、いわゆるM字型カーブのデータは、M字の底が浅くなり全国同様に女性の就労が増加している。この分析を正社員の就労なのか、パートタイムの就労なのかという分析ができるのであれば、やってほしい。

0歳児の保育は17時までで、延長保育がない。保育所が、0歳児はデリケートであり、子どもの命を預かる仕事として、17時以降の延長に必要な人手を確保することもできないし、看護職の人も確保できないので、17時までしか責任をもって預かれないという事情も理解する。

子どもさんが小さいうち（0歳児の間）は、時短で働くとか、早く帰れるような環境を整えとか、環境整備に力を入れることも当然だが、併せて、他の自治体でも0歳の保育が17時までしか見られないということは、正社員として働けないことを意味している。育休などが使えば良いが、育休が使えるけど、働きたいので、使いたくない人もわずかだがいる。そうした人が選んで坂出市に来てくれるように、例えば、坂出だったら子どもを産んで半年後からバリバリ働ける、保育所でも18時まで延長保育ができるなど、他所がやっていない政策でかつ女性が働きやすい、正社員としても働けるまち坂出といったことを打ち出すことができれば、女性が出て行っていることの解消につながるのではないかな。

○事務局

現状では、そのようなデータを持ち合わせていない。指摘の正社員とパートの分析でできるデータを探すなど検討を進める。

●会長

25ページの女性の就業率グラフでは、H27が大きく下がり、その後盛り返しているが、何かあったのか。盛り返しているのではなく、H27年だけ、特殊な事情があつて下がったのか。

○事務局

その点も、今後分析していきたい。

●委員

高松の駅前開発を注目しているが、駅前だけに集約してしまうと色々混雑していくのではないと思う。坂出市も駅前開発の案があるが、香川県内の他市を見ても、駅前がきちっと連携して駅前のエリア内だけで解決しているところは少ない。チャンスとしては、大学生やイベントで香川に訪れた人との関係を持つことであり、その場合に一番利便性が高いのは坂出市であるが、坂出では受け入れ体制ができていないことが問題である。高松市と競争しても仕方がないので、高松市を補完することになるのかもしれないが、役割分担として坂出市がそのような立ち位置を目指すことを明確にして、魅力あるまちや利便性の高いまちをどのように作っていくかをしっかり打ち出せば、何らかのアピールになるのではないかと。大学生も文理大学もできて通学圏内となれば、坂出は利便性が高く、大学生が来るので、まちもにぎやかになると思っている。何らか具体的プランを出す事が、PRに繋がるのではないと思う。人口を確保するためはこのような点も含めて明確にしていくことを願う。

●委員

80、90代の方と接する機会がよくあり、話を聞く中で、「戻ってこなくていいよ」と言われる方が多い。

データのことも大切であるが、自治会や祭りなどの古い風習が絡んで、非常に若い女性が負担に感じる事が多くある。私も県外から嫁いできて、自治会等の活動は女性にとって負担が大きいと感じている。例えば、女性が台所のことをしている間、男性は、飲んで食べている状態がまだまだあり、そうした傾向が、80代、90代の年配の方にはあるので、「戻ってこなくていい」という事を母親が嫁に言ったりしている。

色々な事をやるより、まず人の考え方を変えなければならない部分が大いにあるのではないかと私は肌で感じている。

●会長

外からの移住や嫁いできたからこそ感じることもあるのだろう、ずっとここで育っていると、当たり前と感じてしまう。非常に、貴重な意見だと思い聞いた。

●委員

人口推計のビジョンに関する生データを分析したところ、施策や措置に関して、男性には寄与しているが、女性は無反応、全くゼロという数値が出た。働ける女性が、坂出に住んでもらえる施策をすべて打たないというUターンしてもらえないことを自分として理解したので、計画はこのまま進めてもらえればと思っている。

頂いたデータを全部縦に足して、その変化の回帰線を引くと女性は、ほぼゼロでまったく効果なし。男性は、+0.003と微増だが、上向きになっているので効果ありと判断した。

●会長

ターゲットを絞って施策を進めているつもりだがなかなか効果が表れない。それが、何故かということを含めないといけないという意見だと思う

○事務局

女性の活躍に関して、坂出市としても取り組みが必要なことを認識しているので、後の総合戦略にしっかり織り込んでいきたい。

●委員

35ページの人口展望があるが、前回のプランでは将来の人口展望は、何人に設定されたのか教えていただきたい。

○事務局

前回の人口ビジョンでは、4万2千を目標値、将来展望として設定した。

●委員

目標値を何故2千人に下げたのか。

○事務局

前回も色々なパターンで試算しているが、パターンで、大きく変わったのは、出生率であり、前回は、人口置換水準出生率を2.07まで引き上げる目標で試算している。今回は、どこに設定するかを検討したところ、現状が、1.43であるところから現実的に1.65を目標値とすることが適切と考え、4万人の目標値の設定となっている。

●委員

理由を聞いたかっただけだが、感情的には、目標値は、4万人達成も難しいのだと思うが、志高く4万2千に向けて努力する姿勢が大事なのではないかと思う。社会情勢も含めて、算出していることを理解したが、4万人と言わず5万人を目指して頑張っておられるのであろうから、説明は理解した。

●会長

他に。

●全委員

なし。

●会長

その他、特に意見がないようなので、これで議題（1）については終わる。

次に議題（2）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について事務局の説明を求める。

○事務局

（資料2により説明）

●会長

ただいまの説明に質問、意見があればお願いします。

網羅的に書かれているが、他の市町と変わらないところもあるかもしれない。坂出市らしさ、坂出市で効果が上がる施策をどう組み込んでいくかが勝負と思うので、ご意見いただけるとありがたい。

●委員

13ページの住みたいまち、戻りたいまちづくりに瀬戸芸で移住定住促進との話がある。それに関して、前回、PTAや子ども会連合会に瀬戸芸のお手伝いのボランティア要請があり、私も手伝いをしたが、土日にもかかわらずわが子は置いて来て下さいと言われた。PTAや子ども会を通じて、気持ちよく坂出住民が手伝いをしているのに、あまりにも外ばかり

見すぎているのか。ただ、ボランティアの担い手だけを求めてボランティアを行う住民がほったらかしになっている。また、ボランティアには、開会式が沙弥島である連絡もなく、テレビのニュースでそのことを知った。

子ども会でも問題になっており、今年もボランティアの依頼がくると思うが、林田地区では、断るとの話も出ている状態である。他の小学校区のボランティアも子ども会OBがボランティアに出ている状況にあり、本来、みんなが楽しめるはずなのに、坂出の子どもや子供会の親たちが楽しめていないのが現状である。

坂出市に住んでいる親子、親子会や子ども会等に入っている人達が楽しめていないのに、他所の人を楽しませてくれというのは、違うのではないかと。3年前の瀬戸芸の時からもやや感を覚えていた。

さらに、別のマラソン大会でも、ボランティアで婦人会がうどん等のおせったいの準備を頑張っている。それもものすごく大変で、それが嫌で若い方3名が自治会をやめたと聞いている。外向けのイベントは、非常に良いことだが、自治会や子ども会等の負担も頭に入れておいてほしいと、実際に子供会連合の立場にいるものとして強く思う。

○産業観光課

瀬戸芸の“おてつ隊”の件、前はコロナ禍との事情もあり瀬戸芸の組織や運営は、かなり準備不足の状態であった。“おてつ隊”は、2013年から、子ども会や連合会にやっていた。1番は子どもたちが、来場者と触れ合うことで、楽しんでもらい、なおかつ来てもらった来場者におもてなししてもらおうということが基本。来年春に瀬戸芸があり、第1回の“おてつ隊”の打ち合わせをしたところであるが、皆が楽しみ、参加してよかったと子供達の記憶に残るような“おてつ隊”にできればと思っている。是非、ご協力頂きたい。

○生涯学習課

子ども会、PTAの事務局を担当している。ただ、任意の団体であるため、こうしなさいとこちらも言いにくいところではあるが、今の意見を踏まえて、こちらからも助言させていただく中で、ボランティア等が参加しやすいように提案していきたい。ご理解してもらえれば。

●委員

基本目標2の数値目標に市内宿泊者数を上げて行くところがあるが、今、検索をかけても、琴

参閣など他のホテルが検索されて坂出市のホテルが出てこない。考えてみても坂出のホテルは3件ぐらいしか思いつかず、数値目標にすることの意味と目標と掲げることが住みたくなるまちと宿泊数を増やす事にどの程度リンクするのか不明であり、この目標設定でいいのか疑問である。

第二に、宿泊者数を増やすことをこの計画に載せるということは、それなりの予算をつけ、宿泊施設に何らか補助を出して魅力のある宿泊施設にすることであると思っている。しかし、一方で、宿泊施設の周りには飲食店が少ないので、例えば“さかビズ”での創業を増やしていく場合に、ホテル近くの空き店舗を紹介してここで飲食店展開をするなら紐付けて創業支援を優先的に行うなどの方向性としての横軸を通すことで、“さかビズ”は“さかビズ”、宿泊は宿泊ではなく関連性を持って進めることができる。検討願いたい。

○建設経済部長

宿泊者数をKPIにあげる件について、直接人口増と数値がリンクしないことは理解している。その前の大きな施策として、関係人口や交流人口を増やすことで、坂出を知ってもらい、将来的な移住・定住につなげていくというのが、総合戦略まち・ひと・しごとにあると思っている。観光、ビジネスも含めて、人々の流れを把握できるものがないかということで、宿泊者数を入れている。当然、メインとしては、イベントや観光情報の発信、公共交通の利便性向上となるが、そういうことで、人々の流れを調べられる指標として設定している。

“さかビズ”の連携は貴重な意見で、参考になる。現状、言われる通り、縦割りの事業になっているので、様々な視点で横串を進めていく体制を作っていきたい。

●委員

交流人口や観光で訪れた人を指標でみるときに、坂出、宇多津、丸亀、と総合的に見る必要がある。坂出市だけを観光して、満足して住む方の確率は非常に低く、まずはそうはならない。変更は難しいのであろうが、坂出だけの数値目標として適切かは検討すべきである。

●委員

総合戦略としては、すべての項目を当てはめる必要があり概論的なものになっていると感じるが、そのような書き方にならざる負えない事もよく理解している。

その中でも着目するのは、基本目標4の市民が主役の暮らしやすいまちをつくる、21ページのKPIのところに、「中心市街地活性化公民連携事業に伴う駅前拠点施設の来館者数」に暫定的に数値が入っている。人口ビジョンの13ページの流入流出人口があったが、以前、坂出市で実施した高校生向けのアンケートでは、「休みの過ごし方」の回答として、坂出に住んでいる学生も含めて「マルタス（丸亀）」が多かった記憶がある。坂出駅前の整備はマルタスと同じく指定管理にCCCが選ばれたが、坂出駅前ができる際に機能の棲み分けが必要になるのではないかな。

坂出、宇多津、丸亀に関わる方から聞いたところ、指定管理会社は、数値的なKPIをクリアする営業努力をされると言われていた。また、その場合、広域連携も視野に互いの機能を活かす関係づくりが必要ではないかとも言われていた。坂出に丸亀から619人、綾川から34人、高松市から169人通学してくる生徒が、坂出市に施設ができた場合に、分散して取り合いにならないのが懸念され、一時的には減少するかもしれないと言われている。棲み分けではないが、坂出にはマルタスにはない機能を設け、広域で連携、協働をして、お互いの特色を出していくことで対応するとのことである。そのような観点からすると、先ほどこれから見直すと言われていた数値目標を設けることは非常に難しく、WIN-WINとなる目標を皆さんで協議して生み出していきたい。

○公民連携・DX推進課

アンケートでは、休日ではなく放課後どういった過ごし方をするのがいいかといった問だった。丸亀から坂出に電車等で通学をしている人、坂出から丸亀に行っている人、坂出から坂出市内の高校に通っている人を対象にアンケートを行い、坂出から丸亀に行っている人の大部分はマルタスや宇多津等で過ごしており、丸亀から坂出に通学している人は、丸亀に帰って過ごすか宇多津で過ごす等が大多数だった。ショッキングだったのが、坂出に住みながら高校に通う人も宇多津、丸亀に行って過ごしているといった回答である。

坂出市内は、高校生が過ごせる場所が少ないといったことも踏まえて駅前等の整備を検討中である。今後は、ご意見のように同じような施設を作っても学生の取り合いとなるので、事業者含めて、どういった運営を行っていくのかを、1月から2月に開催するWSを通して市民の声を吸い上げて、運営方針を検討していきたい。

●委員

“マルタス”のみならず、丸亀市民会館など、先進的な取り組みを行っている施設がある

ので、それらも参考にして勉強していただきたい。坂出市は、なんと言っても駅の前に施設ができ、地の利があるので、若者のみでなく様々な交流が生まれることを期待している。

●委員

坂出らしさということで、女性が住みやすいところにしていくべきと思う。5ページ以降から女性との名詞が出てくるが、1ページ目には女性の言葉がなく、言葉のないところからは何も生まれないので、はじめから女性の言葉を入れていただきたい。

神戸視察で、神戸市も人口が減り始めていると聞いて驚いた。その原因は、高層マンションがストップしてしまい、住む人が減ったためとのこと。共同住宅を数値化して残さないことに関して、指標までは不要だが、何らかの関係はあるはずなので、我々がわかる形で残していただきたい。人口の増減に寄与しているのではないかと思う。

坂出の学校は音楽をやっている学校もある。市民ホールの使い方として、高校生には無償で解放して、いつでも練習できるようにすることで、利用度も上がりホールの良さも理解される。ホールが利用しやすい状況に繋がる開放事業を行って欲しい。

○文化振興課

大規模改修後に坂出高校の音楽科の生徒に使ってもらおうと検討したことがある。残念ながら、市民ホールは、音楽ホールではなく多目的ホールとして建設されている。設備も多目的ホールとしての設備を整えている。坂出高校の音楽科の先生方からご意見をもらった中では、足元の絨毯は音を吸収してしまい、良い声が響きにくい。吹奏楽の生徒にとっては、ステージが小さくオーケストラスタイルの配置では手狭等の検討事項がある。そのあたり、どうにかクリアして、高校生にも使ってもらえるようにしていきたい。

●委員

2ページで、計画の期間が6年間とあるが、前回は5年となっているが、何か理由があるのか。

午前中の子ども・子育て会議での発言との整合性をとる為の意見であるが、「〇〇のまちをつくる」「にぎわいのある住みたいまちをつくる」とあるが、「まち」はどこでもまちなので、明確に「仕事で輝ける働きたい坂出をつくる」など、まちを坂出に変えると、自分ごと化するのではないかと考える。

思い付きだが、息子が25歳で、県外から帰り、坂出の方と結婚した。同級生と会う際に、

坂出で食事をしようと思っても、求める場所が坂出になく、高松や宇多津に行っている。若者が食事できるようなところがない。坂出出身者同士の結婚で、坂出で式を挙げたかったが、希望する場所がなく高松で式を挙げた。シビックプライドを考えると、瀬戸大橋公園で結婚式を挙げ、坂出高校の音楽科の学生が讃美歌をうたって祝うなどの取組も考えられるのではないかな。高校生も結婚の願望が強くなり、子供も増える、そのようなプロモーションを考えるとよいのではないかな。

○事務局

何故6年なのかについては、来年度まちづくり基本構想の改定時期を迎える。基本構想の改定スパンは、10年なので、基本構想を総合戦略の前に改定できるようにするために、6年を設定とした。

「まち」を「坂出」に変えることについては、意見も踏まえて整理検討したい。

●会長

坂出の弱みは、若い女性が出ていくということであり、その要因に、帰って来たくない事情もある。そこがターゲットになるのではないかな。若い女性がUターンして帰って来なくなれば、子どもも増えることになるろう。

具体案はないが、13ページに「戻りたいまちづくり」とあり、「新たなにぎわいを生み出す人づくり」で地域おこし協力隊の話がある。例えば、女性3人を地域おこし協力隊として雇い、様々な障害を明らかにして、いかにUターンしてもらうかを、チームを組んで戦略をたてる。それらを担うような、「Uターン地域おこし協力隊」を考えることもありうるのではないかな。

○事務局

現在地域おこし協力隊の方が、1名着任している。この12月から2名着任予定で、うち1人が移住コーディネーター、もう1人が国際交流マネージャーである。

地域おこし協力隊は3年の期間を経て、地域に根差してどんどん地域おこしの好循環を起こしてもらうことを期待している。

●会長

地域おこし協力隊に関して、出ていかれた方が2、3人帰ってくれば、それだけで人口

は増えるわけで、もう少し積極的、戦略的に考えられるのではないかな。

●委員

坂出は病院が多いことが魅力であると思う。私自身も母の介護がスタートしたが、包括支援センターの方が非常に丁寧だった。今後、育児と高齢者ケアのダブルケアの人も増え、20、30代で両立に悩む人も出てくると思われるので、坂出に住めば両立できるといったPRをしてはどうか。高齢者福祉施設が充実していることは介護者にとっても良いことなので、それも売りにしたら良いのではないかな。

●会長

他に何かあるかな。

●全委員

なし。

●会長

人口ビジョン、総合戦略、両素案に関して、本日頂いた意見を織り込んで、最終的な戦略案を次回検討する。

3. 閉会

○事務局

次回、第5回坂出市総合戦略会議日程は、12/23（月）13：00から予定している。会議案内は後日送付する。

以上で第4回坂出市総合戦略会議を終了する。